

『神』は犠牲を好まない

ため
『神』の為に行った事は、あとで10倍にでも100倍にでもして返して下さいます。

- 5 『神』は人間に借りを作ったままにはなさらないのです。
『神』のために行った事や、“喜捨”に対するご守護は、その人に最も必要な事に対して下さいます。
『神』は、その人の向上に本当に役に立つような形で返して下さるのです。

10

れんきんじゅつ
鍊金術という言葉を聞いた事があると思いますが、辞書には“化学的手段を用いて
貴金属（特に金）を精錬しようとする試みの事”とあります。
しかし、この言葉の語源は実はキリスト教から発生したものなのです。
15 その云われは、『神』に喜捨をすると、たちまちの内に大きなご守護を戴けて、大
きな収入を戴けるのです。
すると更に大きな喜捨が許されて、更に大きなご守護を戴けるのです。
そうやってどんどん、どんどん繰り返して拡大して行って、大富豪にまでなれる
いう事を表した言葉なのです。
20 モーゼ、釈迦、キリストが真理を説く活動に協力した方々の子孫が、現在の中近東
やインドの大富豪になっているのです。

25 “喜捨”とは、金銭又は物品を『真理 = 神理』を世界に遍く弘める為にお役に立たせて
下さい。と『神』に捧げることです。

“喜捨”したお金は、『神』から見て、現在のその方に必要とする形で戻ってきます。
つまり、必ずそのまま金銭として戻るという訳ではありません。

30 ※ 詳しくは ■喜捨《92P》にて解説

35 人知が神の智恵を邪魔してしまい、価値を下げてしまうことがあります。

例) 白金（プラチナ）に原子炉で中性子を当てると金に変化します。
→金よりも白金の方が高価ですから、その技術では、白金の価値を下げてしまいます。
これは、人知では利益にならないことの一例です。

40